

大阪府遊技業協同組合  
「ホール外周への防犯カメラ設置」事業



大阪府遊技業協同組合  
理事長  
平川容志さん

ひったくりを抑止するために  
防犯カメラをホール外周に設置

ひったくりワースト1の汚名返上を目指す

全国的に報道されることはほとんどないが、新聞の地方面やテレビのローカルニュースを見れば、「ひったくり」事件が連日のように報道されている。なかでも大阪府は、ひったくりが多発している都道府県のひとつで、昨年1年間の認知件数は1473件であるが、大阪府は2009年まで34年連続で全国ワースト1であり、2010年には脱したものの、2011年から再びワースト1となっている。

このような状況を改善しようと、大阪府遊技業協同組合(以下、大遊協)では、2008年度から「ひったくり撲滅キャンペーン」を実施し、地元警察署や防犯協会などと連携して大阪府民に被害防止を訴え、ひったくり事件の発生件数の減少を目指す街頭キャンペーンなどを継続して展開してきた。

加えて、ひったくりを含む街頭犯罪は、同一犯人による再犯的な傾向が顕著なため、その抑止効果はもちろん、「犯人検挙に勝る防犯はなし」との思いから、大遊協では社会貢献活動の一環として、パチンコ・パチスロホールの外壁に街頭犯罪抑止を目的とした防犯カメラを外向けに設置してきた。もし、ひったくりなどの犯罪が発生したときには、警察の映像提供等の要請に積極的に応えることで、「安全・安心なまちづくり」をより強力にサポートする活動を継続して展開している。

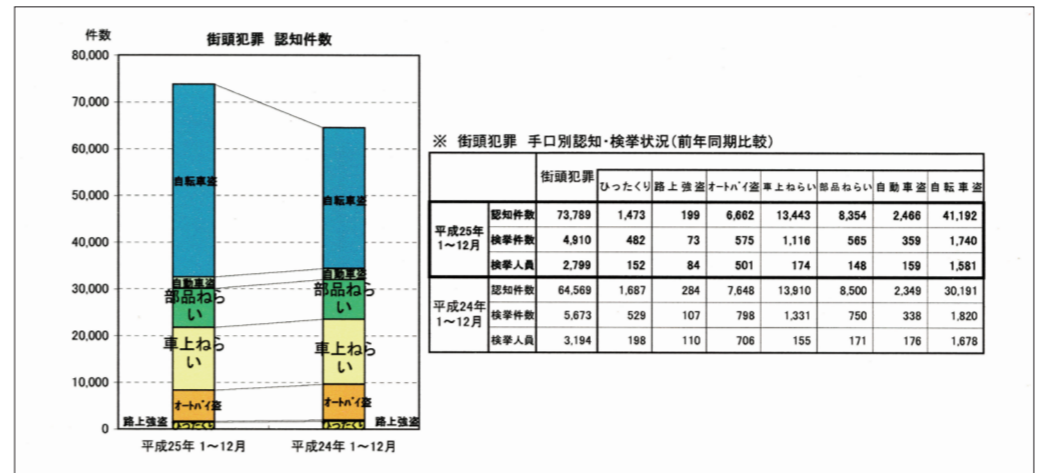
警察や地域住民と協力態勢を構築する

具体的には、2010年10月の大遊協の定例理事会において、防犯カメラを組合の費用で設置する決議を行い、2011年3月から順次、ホールの外壁などに設置を開始した。設置基準は、街頭犯罪発生の蓋然性が高く、行政が犯罪抑止の重点としている地域で、近隣に防犯カメラが設置されていないホールとしている。

設置目標は、当初、約400台とされたが、その後、150台が追加され、今年2月の時点では、目標を超えた557台が設置済みである。これまでに要した設置費用(カメラ本



設置された防犯カメラ



街頭犯罪認知件数の比較

体、設置工事)は6910万4000円(2013年12月末時点)で、今後、保守メンテナンス費用などに毎年、約200万円が必要となる見込みである。また、設置後10年を経過した段階で、全面的な取り替えを行う予定としている。

実際の設置に先立ち、大阪府警察本部や当該所轄警察署との調整をはじめ、設置予定ホールが所属する支部組合長が当該ホール、地域住民などの検討会を開催し、設置についての理解と協力を得た。また、設置後は、地域の安全確保のために防犯カメラを設置・作動している旨の広報活動も行った。

街頭犯罪の抑止とともに、ホールや遊技客を対象とした各種犯罪の抑止を含んでおり、自衛のための防犯カメラだが、通行人などを被写体としているため、録画した映

像は所轄警察署の要請があった場合を除き、ホール外に持ち出さないなど、その保秘には十分配慮しており、大遊協では、「防犯カメラ設置要綱」を定め、その取扱いに遺漏のないよう努めている。

2012年には設置台数405台中、140件、2013年には同557台中、157件の活用事例があったが、そのなかにはひったくりなどの街頭犯罪はもとより、殺人事件、ひき逃げ事件なども含まれている。強制わいせつ事件やひったくり事件において犯人を割り出し、余罪多数という事例も報告されている。また、ひったくりの認知件数は、2012年の1687件に比べ、2013年は1473件で214件減少していることから、防犯カメラの効果が徐々に表れてきているのではないだろうか。